

⑨ 日本国特許庁 (JP)

訂正有り
⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 昭64-81087

⑤ Int.Cl.
G 06 K 17/00

識別記号

府内整理番号
S-6711-5B
E-6711-5B

⑥ 公開 昭和64年(1989)3月27日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑦ 発明の名称 ICカードデータ伝送方式

⑧ 特願 昭62-238207

⑨ 出願 昭62(1987)9月22日

⑩ 発明者 落合誠 大阪府茨木市丑寅1丁目1番88号 日立マクセル株式会社
内

⑪ 出願人 日立マクセル株式会社 大阪府茨木市丑寅1丁目1番88号

⑫ 代理人 弁理士 梶山信是 外1名

明細書

1. 発明の名称 ICカードデータ伝送方式

2. 特許請求の範囲

(1) ICカードと、このICカードが装着される情報処理装置との間でなされるICカードデータ伝送方式において、前記情報処理装置と前記ICカードのうち少なくとも一方は、伝送情報の暗号化に関する複数の暗号化処理情報と、この暗号化処理情報に基づいて送信データを暗号化する暗号器とを備え、前記情報処理装置と前記ICカードのうち少なくとも他方は、複数の前記暗号化処理情報に関する解説器を備え、前記一方は、前記暗号器により暗号化した前記送信データを送信情報とし、この送信情報にその暗号化処理情報を付加して情報を送出し、前記他方は、付加された前記暗号化処理情報を受け、受けたこの暗号化処理情報に基づき前記送信データを前記解説器により解説して復元することを特徴とするICカードデータ伝送方式。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

この発明は、ICカードデータ伝送方式に関し、詳しくは、ホストコンピュータとか、ICカードリーダ・ライタ等の外部装置とICカードとの間で暗号化してデータを伝送する場合において、送信データに対するセキュリティを向上させることができるようなICカードデータ伝送方式の改良に関する。

【従来の技術】

ICカードに対する従来のデータ伝送方式は、一般に、データがそのまま転送されて送受信され、暗号番号等については、ICカード内部でスクランブル変換されることもあるが、データ自体の暗号化は行わない場合が多い。データ自体の暗号化を行う場合にも、暗号化方式を指示するためのコマンドが必要とされ、あらかじめ定められた特定の暗号化方式が採用される。

このような暗号化としては、例えば、取引等の一連の処理を行う時などには、コマンド群及びレスポンス群が処理を行うに先立って指定した暗号

化方式に従って処理され、外部装置も I C カードも同一の暗号化方式に従ってデータ伝送を行う。

しかし、このような方式では、その暗号化方式が一度他人に解析されてしまえば、一連のデータを抽出して解説することが容易となり、セキュリティが低いという欠点がある。

【解決しようとする問題点】

この発明は、前記のような従来方式が持つているデータ伝送時のセキュリティの低さを向上させ、又はその記憶情報に対してセキュリティの高い I C カードを実現できる I C カードデータ伝送方式を提供することを目的とする。

【問題点を解決するための手段】

このような目的を達成するためのこの発明の I C カードデータ伝送方式における手段は、I C カードと、この I C カードが装置される情報処理装置との間でなされる I C カードデータ伝送方式において、情報処理装置と I C カードのうち少なくとも一方は、伝送情報の暗号処理に関する複数の暗号化処理情報と、この暗号化処理情報に基づいて送信データを暗号化する暗号器とを備えていて、情報処理装置と I C カードのうち少なくとも他方は、複数の暗号化処理情報に関する解説器を備えていて、一方は、暗号器により暗号化した送信データを送信情報とし、この送信情報にその暗号化処理情報を付加して情報を送出し、他方は、付加された暗号化処理情報を受け、受けたこの暗号化処理情報に基づき送信データを解説器により解説して復元するものである。

【作用】

このように構成することにより、例えば、外部装置がデータの送信を行なうコマンド列又は I C カードから受信するレスポンス列の中に、そのコマンド列又はレスポンス列で伝送するデータに対する暗号化の方式を示すコードを付加し、そのコードに従って I C カード又は I C リーダ・ライタ等の外部装置がデータの送受信を行なうことになるので、コマンド単位での暗号化を行うことが可能である。

その結果、1つのコマンドの暗号化方式を解説

されても次のコマンドは、別の暗号化方式を採用することができる。そこで、データ伝送時にデータを提出される危険性が少なくなる。また、I C カード側では、その記憶情報に対してセキュリティの高い I C カードを実現できる。

【実施例】

以下、この発明の一実施例について図面を参照して詳細に説明する。

第1図(a)は、この発明を適用した I C カードデータ伝送方式の一実施例を示すブロック図、第1図(b)は、その伝送情報のフォーマットの説明図である。

第1図(a)において、1は、I C カード2が装置され、I C カード2とデータの授受を行う I C カードリーダ・ライタであり、これらは、通常、コネクタで接続されるか、コイル等を介して電磁結合され、被接触状態で接続される。

3は、I C カードリーダ・ライタ1から I C カード2に対して送出されるコマンド列であり、4は、このコマンド列3に対する I C カード2から

のレスポンス列である。

コマンド列3とレスポンス列4のフォーマットの詳細は、第1図(b)に示すように、その先頭部分に先頭を示す開始コード11が設けられ、次にコマンドコード又はレスポンスコード12、そして暗号化コード13、送信データ14、最後に終了コード15と続く構成となっている。

ここで、暗号化コード13は、I C カードリーダ・ライタ1と I C カード2に記憶されたそれぞれの暗号化コードテーブル5から選択されるものであって、この暗号化コードテーブル5には、複数の暗号化コードが記憶されている。

前記コマンド列3とレスポンス列4の暗号化コード13はこれらのうちから選択された1つであり、I C カードリーダ・ライタ1と I C カード2には、暗号化コードテーブル5に記憶された暗号化コードに基づいて送信データを元の情報に戻す解説器6と、送信データを暗号化する暗号器7とがそれぞれ設けられている。

暗号器7は、例えば、選択した暗号化コード1

特開昭64-81087(3)

3と送信データとを掛けてその答え求め、これを暗号化した送信データ14とするものとか、暗号化コード11と送信データとを特定の函数でスランプル処理して暗号化して送信データ14を得るもの、さらに、暗号化コード11に対応する暗号化函数自体を選択して、選択した函数により送信データを暗号化して暗号化した送信データ14を得るもの等、各種の暗号化処理機能のうちの1つを採用したものである。

なお、この暗号器7で使用されるその時の暗号化コードは、暗号化コードテーブル5に記憶されているものであり、そこから読み出されて、暗号器7に加えられる。そして、暗号器7に加えられたその時の暗号化コードが暗号化コード13として暗号化された伝送データ14とともに送信時のコマンド列3又はレスポンス列4として送られる。

送信側で選択する暗号化コード13は、暗号化コードテーブル5の暗号化コードから選択されるものであるが、その選択は、それぞれのマイクロプロセッサによりランダムに選択するほうがよい。

時には、別な暗号化コード13がセットされることになる。なお、この場合に、ある回数同じ暗号化コードが使用されて、変更されてもよいことはもちろんである。

したがって、1つのコマンドの暗号化方式を解説されても、次のコマンドでは、また別の暗号化方式となるか、別の暗号化方式を指定できるので、データ伝送時のデータ盗用に対するセキュリティを向上させることができる。

ところで、実施例では、ICカードとICカードリーダ・ライタ双方に暗号器と解説器、複数の暗号化コード（暗号化コードテーブルとして、なお、テーブルでなくもよい）とを設けているが、ICカード側に暗号器と複数の暗号化コードとを設け、ICカードリーダ・ライタ側にこれに対する解説器を設ければ、ICカードのセキュリティが保証されるので、十分である。また、データ伝送時のセキュリティを向上させるには、前記とは逆に、ICカードリーダ・ライタ側に暗号器と複数の暗号化コードとを設け、ICカード側にこれ

しかし、特定のルールに従って選択するようにしてよい。

一方、解説器6は、受信した暗号化コード13を使用して前記暗号器7の処理とは逆の処理を行い、送信データ14から元の送信データを復元するものである。

このような送受信方式において、ICカード2を用いてショッピング等を行う場合には、ICカードリーダ・ライタ1とICカード2との間でコマンド列3及びそのコマンド列3に対するICカード2のレスポンス列4の送受信を必要なだけ行う。この時のコマンド列3及びレスポンス列4の中の送信データ14は、その都度、暗号化コード13で示す暗号化方式に従い暗号化された形式で伝送されることになる。

これを受信した側では、暗号化コード13に従い、送信データ14を処理し、送信データ14を通常の形式に復元する。この場合、この暗号化コード13は、1つのコマンド列3及びレスポンス列4の中でのみ有効であり、次のコマンドを送る

に対する解説器を設ければ、十分である。

なお、解説器とか暗号器は、マイクロプロセッサとその処理プログラムとにより実現されても、専用の特別なハードウェアで実現されてもよく、その方法を問うものではない。

実施例では、ICカードをICカードリーダ・ライタに装着した例を上げているが、これは、ICカードリーダ・ライタに限定されるものではなく、ホストコンピュータ等に直接接続されてもよく、ICカードの送受信の相手は、ICカードが装着される情報処理装置一般でよいことはもちろんである。

【発明の効果】

以上説明したように、この発明にあっては、データの送信を行うコマンド列又は受信を行うレスポンス列等の送信情報の中に、その送信情報で伝送するデータに対する暗号化の方式を示す暗号化コードを付加し、この暗号化コードに従ってICカード又はそれが装着される情報処理装置がデータの送受信を行うようにしているので、送信情報

単位での暗号化を行うことができる。

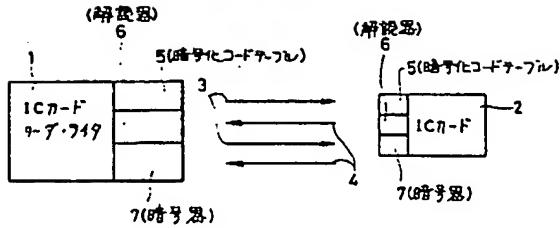
その結果、1つの送信情報の暗号化方式を解説されても次の送信情報が別の暗号化方式を探ることができ、データ伝送時に、データを読み出される可能性が少なくないデータ伝送方式が実現できる。また、ICカード側では、その記憶情報に対してセキュリティの高いICカードを実現できる。

4. 図面の簡単な説明

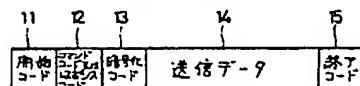
第1図(a)は、この発明を適用したICカードデータ伝送方式の一実施例を示すブロック図、第1図(b)は、その伝送情報のフォーマットの説明図である。

- 1 … ICカードリーダ・ライタ、
- 2 … ICカード、3 … コマンド列、
- 4 … レスポンス列、5 … 暗号化コードテーブル、
- 6 … 解説器、7 … 暗号器、11 … 開始コード、
- 12 … コマンドコード又はレスポンスコード、
- 13 … 暗号化コード、14 … 送信データ、
- 15 … 終了コード。

第1図(a)



第1図(b)



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成6年(1994)12月6日

【公開番号】特開平1-81087

【公開日】平成1年(1989)3月27日

【年通号数】公開特許公報1-811

【出願番号】特願昭62-238207

【国際特許分類第5版】

G06K 17/00 S 7459-5L
E 7459-5L

平成6年6月29日

特許庁長官印

1. 事件の表示

特願昭62-238207号

2. 発明の名称

ICカードデータ伝送方式

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 大阪府茨木市立東一丁目1番88号

名称 (681) 日立マッセル株式会社

代書者 佐藤 宏

(069) 422-5127 加賀野町

4. 補正命令の日付 白空

5. 補正による増加する発明の数 なし

6. 補正の対象

(1) 著者の発明の名称の誤

(2) 明細書の発明の名称の誤

(3) 明細書の特許請求の範囲の誤

(4) 明細書の発明の詳細な説明の誤

7. 補正の内容

別紙のとおり

(1) 著者の発明の名称の誤を「ICカードシステム」に補正する。

(2) 明細書の発明の名称の誤を「ICカードシステム」に補正する。

(3) 明細書の特許請求の範囲を次のように補正する。

「(1) ICカードと、このICカードが装着されたデータの書き込み、読み出しをおこなう情報処理装置とから構成されるICカードシステムにおいて、

前記情報処理装置と前記ICカードのうち少なくとも一方は、伝送情報の暗号化方式に関する複数の暗号化処理情報と、複数の暗号化方式の中から前記暗号化

処理情報を基づいた暗号化方式により送信データを暗号化する暗号器とを備え、前記暗号器により暗号化した前記送信データに暗号化処理情報を付加したデータを他方に送信し、

前記情報処理装置と前記ICカードのうち少なくとも他方は、前記暗号器に対応する解密器を備え、

送信したデータに含まれる前記暗号化処理情報を基づいた解密方式にて、前記送信データを前記解密器により解説して復元することを特徴とするICカードシステム」

(4) 明細書第2頁第2行の「この発明は、」から第2頁第8行の「に関する。」を次のように補正する。

「この発明は、コストコンピュータやICカードリーダ、ライタ等の情報処理装置とICカードから構成されるICカードシステムに関し、詳しくは、情報処理装置とICカードとの間で暗号化してデータを転送する場合において、送信データに対するセキュリティを向上させることができるICカードシステムに関する。」

(5) 明細書第3頁第10行から3頁第11行の「ICカードを実現できるICカードデータ伝送方式」を「ICカードシステム」に補正する。

(6) 明細書第3頁第14行の「このような目的を」から第4頁第9行の「復元するものである。」を次のように補正する。

「このような目的を達成するため、本発明は、ICカードと、このICカードが装着されたデータの書き込み、読み出しをおこなう情報処理装置とから構成されるICカードシステムにおいて、前記情報処理装置と前記ICカードのうち少なくとも一方は、伝送情報の暗号化方式に関する複数の暗号化処理情報と、複数の暗号化方

式の中から前記暗号化処理情報に基づいた暗号化方式により送信データを暗号化する暗号器とを備え、前記暗号器により暗号化した前記送信データに暗号化処理情報を付加したデータを他方に送信し、前記情報処理装置と前記ICカードのうち少なくとも他方は、前記暗号器に対応する解密器を有し、受信したデータに含まれる前記暗号化処理情報を基づいた解密方式にて、前記送信データを前記解密器により解説して復元するものである。」

(7) 明細書第5頁第9行から5頁第10行の「ICカードデータ伝送方式」を「ICカードシステム」に改正する。

(8) 明細書第6頁第17行の「は接続状態」を「非接続状態」に改正する。

(9) 明細書第11頁第4行の「データ伝送時に」から第11頁第7行の「実現できる。」を「データ伝送及び、ICカードの記憶情報を対してセキュリティの高いICカードシステムを実現できる。」に改正する。